



LOVE花火 in 湯本温泉

温かい気持ちをかめて

2月9日(土)、湯本温泉音信川河川公園で、LOVE花火 in 湯本温泉が開催されました。この日は厳しい冷え込みとなりましたが、会場となった音信川河川公園にはうどんや焼き鳥、ラーメンやフライドポテト、唐揚げを販売する出店もあり、たくさんのカップルや親子連れなどが訪れま

した。ステージでは生ライブが行われた後、家族へ向けた感謝の気持ちや、恋人に対する気持ちのこもった、愛のメッセージが読み上げられました。続いてそのメッセージを託したLOVE花火が打ち上げられ、来場者はきれいな花火に見入っていました。



▲湯本温泉の夜空に打上ったLOVE花火

▼2月の寒い夜にも関わらず多くの人々が来場



▲はじめての接客に挑戦!

▼長門市ケーブルテレビ「ほっちゃんテレビ」も体験



ちびなが商店街をつくろう8

将来なりたい職業を体験

2月10日(日)、ルネッサながとアリーナで「ちびなが商店街をつくろう8」が開催され、約1万2千人の来場者でにぎわいました。

この企画は、子どもたちに将来なりたい職業を一足先に体験してもらおうと、ながと商工青年部連合会が主催したものです。

子どもたちは文房具店、駄菓子屋、病院、飲食店など43店舗が軒を連ねる仮想商店街で好きな仕事を選び、ジュニアオーナーとして参加した高校生らの指導を受けながら元気に働いていました。

また、会場ではストリートダンスや映画上映なども行われました。

第46回日置地区駅伝大会

地域の絆を力にして走る

2月3日(日)、日置地区の神田小学校をスタート、日置中学校をゴールに、第46回日置地区駅伝大会が開催されました。

この大会は、日置地区の自治会が参加する1部、2部、日置スポーツ振興会に登録している団体を中心とした3部

に分かれており、今年は23チーム、160人が参加しました。今年は大西市長が一般ランナーとして参加し、多くの市民の声援を受け走りました。なお、各部の優勝チームは次の通りです。
1部…狩宿A 2部…狩宿B
3部…YRC



市民協働シンポジウム

市民協働ってなあに？

2月7日(木)、長門市中央公民館で市民協働シンポジウムが開催され、市民や市職員など約300人が参加しました。

市内で実際に活動している3団体を招いて事例発表が行われ、会場に訪れた人は、各団体の活動報告や課題など熱心に聞いていました。その後、

パネルディスカッションが行われました。

パネラーとして参加した山口大学農学部教授の糸原義人さんは「活動を続けていくことが大事。また、それぞれの団体が横のつながりを持って活動するとより良くなる」と締めくくりました。



▲明倫小学校では大西市長や早川くじら資料館長と給食を食べる

▼鯨の竜田揚げをほおぼる菱海保育園の園児たち



くじらの肉を市内小中学校・保育園・幼稚園で

伝統的食文化を引き継ぐ

2月1日(金)、長門市内の小学校11校、中学校6校および下関市の小学校52校・中学校22校で「学校給食・くじら交流の日」が実施されました。

これは、古式捕鯨から近代捕鯨への歴史の中で育まれた伝統的食文化を絶やすことなく次代に引き継ぎ、文化を継承させるため、長門市と下関

市でくじら肉給食を実施するもので、今年度から始まったものです。

また、2月4日(月)には市内の4つの保育園でくじらの竜田揚げ料理が提供されました。これは、長門大津くじら食文化を継承する会が主催したもので、給食のおかずとして振る舞われました。

ひとり暮らしのための「クッキングスクール」

ひとり暮らしを健康に

2月6日(水)、油谷保健福祉センターでひとり暮らしのための「クッキングスクール」が開催されました。これは卒業後ひとり暮らしを始める高校生を対象に、健康に生活するための食生活について学び、実際に調理するもので男女4人が参加しました。

食生活改善推進員の協力のもと、チキンのトマト煮、米粉クリームシチューなどの調理に挑戦。男子は、包丁でりんじんや玉ねぎを切るのに悪戦苦闘していましたが、女子は、テキパキと野菜を刻んでいました。調理が終了すると、全員で試食しました。



長門交通安全協会が表彰

交通安全に貢献

2月4日(月)、長門警察署で長門交通安全協会が県警と県交通安全協会から表彰を受けました。これは、同協会が行った交通立哨や安全教育の推進活動などにより、長門地区での交通事故件数、死者、傷者、物損事故がいずれも減少したことが評価されました。



森林体験学習

なめこで林業を学ぶ

2月7日(木)、仙崎小学校で森林体験学習が行われました。これは、子どもたちを対象に、森林の大切さや林業の重要性の理解促進を図るため、林業研究グループ「長門さとやまの会」の指導の下、なめこの植菌を仙崎小4年生45人が行うものです。

児童たちは、「長門さとやまの会」の会員に指導を受けながら、原木となる木にドリルで穴を開けていました。穴を開け終わるとその穴になめこの菌の入った種駒をハンマーで打ち込んでいきました。児童は、「なめこが生えるのが楽しみ」と話しました。



三隅中学校で立志式

堂々と誓いを述べる

2月2日(土)、三隅中学校で第42回立志式が行われました。

三隅中学校では今年、40人の生徒が立志式を迎え、学校の先輩や後輩、先生や保護者の前で、自分で決めた言葉を大きな声で堂々と発表しました。



長門の 人 People

今の精一杯を相手にぶつけ インターハイ出場を目指す

大津緑洋高校日置校舎2年 白井里帆さん

3月24日(日)から、第40回全国高等学校選抜卓球大会が北海道立総合体育センターで開催されます。

昨年11月に秋市で開催された県体育大会卓球女子シングルスで勝利し、全国への切符を手にした白井里帆さん。全国大会は中学3年生以来の2回目の出場となります。

この大会では、「まずは1勝できるように頑張りたい」と意気込み、日々練習に励んでいます。

なんとなく始めた卓球

兄が卓球スポーツ少年団に入った小学校1年生の時、一緒に卓球を始めました。「練習嫌いで休むことが多く、チームでは一番弱かった」と当時は振り返ります。

大事な試合で逆転負け

スポ少に入ってから間もなく、監督が身体能力の高さを見抜き、「カットマン」として厳しく指導。メキメキと上達し、

才能はあるが欲がない

現在の指導者は「回転をかける技術、ゲーム感には天性のものがある」と絶賛するが「今まではセンスで勝つてきたがそれだけではダメ。もっと貪欲に勝ちたい気持ちを表に出してほしい」と更なる成長を望んでいます。

卓球とは、「道」

抜群のセンスで自身2度目の全国大会出場を決めた今大会は通過点。この大会で変わらなければ更なる高みへは登れません。インターハイ出場への険しい道のりはまだまだ続いています。

